

今月のテーマ



プ(倉庫)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

六

「つ」の足を持つて穀物を貯えるものなあに?」
『菅野茂のアイヌ語辞典』の巻末に載っている

「アイヌのなぞなぞ」の二つ。答えはプ。野ネズミなどが
登らないように足がついている高床の倉庫のことだ
す。平取町二風谷でアイヌ文化を学び始めた私は、プ
とは壁の上に屋根がついている比較的背の高い建物だ
と思ひ込んでいました。でも、実

は結構パラフェイに富んでいて、
壁がなく屋根部分にそのまま
足がついたようなものや、一本の
木を曲げて足と柱を作っている
もの、入り口がなく底から出入
りしたものすらあったんです
て。旭川市の「アイヌ文化の森
伝承のコタン」には笹葺きの立
派なチセ(住居)が復元されて
いますが、脇に立つ三角形のプ
を初めて見た時、思わず「かわ
い〜」って叫んじゃいました。

ところで、冒頭のなぞなぞでは、プの足は六本。え?
四本じゃないの?って思った方もいらっしゃるかと。た
しかに現在あちこちで復元設置されているプは四本
足のものが多く、どちらかという小さな建物という
イメージがありますが、前掲の菅野先生の辞典にも
「足が四本の場合と六本の場合がある」と書かれてい



イラスト/山丸ケニ

ます。ちなみに『ゴールデンカムイ』には六本足のプも
描かれていて、サスガです。さらには、八〜九本の足を
持つ、もっと大きなプもあったとのこと。昭和初期、二
風谷にはスコットランド出身のお医者様であり人類学
者でもあったニール・ゴードン・マンローさん(一八六三
〜一九四二)が住んでいて、貴重な記録映像を残してい
ます。その中に映し出されてい
るプもとても大きく、多くの足
があるように見えます。

かつてのアイヌ社会では、普
段から飢饉に備えて何年分か
の穀物を貯えるようにしてい
たと言われ、裕福な家では穀物だ
けでなく、干し肉の貯蔵用、宝
物の収蔵用などいろんなプが
立ち並んでいたとのこと。

現在、復元されたプの足には
ネズミを防ぐためのイパコカリ
プ(トゲトゲのゴボウの実)やネ

ズミ返しを取り付けられるなど、伝統が忠実に再現さ
れていますが、実は子どもたちの格好の遊び場所。かつ
て二風谷アイヌ語教室に通ってきた子どもたちは、
プのことを「鬼太郎のおうち、ゲゲゲハウス」と呼ん
で、かくれんぼで隠れたり、高床から飛び降りたり
(笑)。ま、子どもは宝物。プの中にいて当然ですね。



次回のテーマは「テクンベとホシ」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イランカラッパ
「ごんにはち」からはじめる。

■ 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■ 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■ 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。